妻沼南小学校　地域説明会　記録

日　　時	令和３年 11 月 14 日（日）14:00～14:35	場　所	妻沼南小学校体育館

（内容）

発言者	発言内容
市職員	1.　開会 2.　挨拶　（教育次長） 3.　男沼小・太田小・妻沼南小の統合について 本日配布させていただいたＡ４横書きの「学校規模適正化について」の資料を使って「妻沼南小学校・太田小学校・男沼小学校の３校の統合」について説明させていただきます。 １㌻から３㌻については、以前の説明会などでも説明していますが、初めて説明会にご参加された方もいらっしゃると思いますので、改めて説明します。それでは１㌻をお願いします。 全国的な少子化の進行により、児童生徒数が減少していますが、本市においても、ほぼ全ての学校において児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進んでおり、この傾向は、今後も続くことが見込まれています。 小規模の学校では、 ・児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ・児童生徒に目が届きやすい。 などのメリットがある一方で、 ・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少なくなる。 ・人間関係相互の評価が固定されやすい。 などの課題も懸念されています。 こうした状況から、国からも市町村ごとに、「少子化に対応した、活力ある学校づくり」について、継続的に検討・実施していくことが求められ、本市においても「学校規模の適正化」に取り組むことになり、平成３０年１１月に「熊谷市立学校の適正な規模に関する基本方針」を策定し、この方針の中で、規模の適正化を図るための方策として「学校の統廃合」を進めることとしました。右の表をご覧ください。 基本方針では、「学校規模の基準」として、小学校ではクラス替えが可能な１学年２学級以上が望ましいこととし、「学校統廃合等の基準」を「複式学級」が見込まれる場合は直ちに検討し、また、「全学年で単学級」となることが見込まれる場合は、児童数の動向に注視しながら検討することとしました。この後、４㌻のところで詳しく説明しますが、妻沼南小・太田小・男沼小は、今後

	も「全学年で単学級」が見込まれています。 ２㌻をお願いします。 左の表に統廃合の案を記載していますが、一番上の成田小と星宮小については、冒頭の挨拶で申し上げたとおり、「熊谷市立成田星宮小学校」として計画案のとおり２０２３年、令和５年４月からの開校に向け、準備を進めています。 太田小・男沼小・妻沼南小の３校の統合は、２０２５年度、令和７年度の計画となっており、ほか、小学校では７地域、中学校では６地域の統合を計画しています。 統廃合の内容ですが、右側のとおり、統合に当たっては、規模や経過年数に関わらず、対等な関係の統合とし、新たな学校として設置します。 設置場所は、既存の学校を使用し、校地面積や校舎の建築年数などを勘案して決定し、通学方法は、元の学区に小学校がなくなる地域については、原則スクールバスの利用を想定し、中学校については、自転車通学を想定しています。 また、統合は新たな学校として設置されることになるため、学校名なども新しいものになります。学校名も含め、校歌や校章など、具体的なことについては、新校設立準備委員会を立ち上げ、学校や保護者、地域の皆さんとともに検討して決定することになります。 ３㌻をお願いします。 ３校の統合の方針案ですが、２㌻のところで説明したとおり、２０２５年度に３校を対等な関係で統合し、設置場所は、校舎が新しく、面積も広い、妻沼南小を考えています。 続いて、右側に記載してある適正化のメリットですが、 ・児童生徒を多様な考え方に触れさせることにより、集団の中でルールを学び、社会性を高めるとともに、より自らの個性や学力、体力を伸ばすことができる。 ・新たな人間関係を構築する力を身につけさせることができるとともに、人間関係の固定化を回避できる。 ・児童生徒同士の人間関係や教員との人間関係に配慮した学級編成ができる。 など、学習生活面のメリットのほか、 ・経験、教科、特性等の面でバランスの取れた教員の配置を行うことができる。 ・ＰＴＡ活動等における保護者一人一人の負担が軽減できる。 など、学校運営の面でもメリットがあります。 ４㌻をお願いします。 上のグラフは令和３年５月１日現在の、住民基本台帳人口を基にした令和３年度から９年度までの児童数の見込です。それぞれ、左から男沼小、太田小、妻沼南小の順に並べていますが、右側の妻沼南小をみますと、３年度から順に、

	１３３人、１２９人、１１２人、１０４人、９０人、７５人、７２人と年々減少し、また、他の２校も同様に減少する見込となっています。 　また、左下のグラフは、統合予定の２０２５年度の児童数の見込です。左側の黒塗りは、市全体の人口減少率に基づき推計した児童数で、右側の白色が住民基本台帳人口を基にした児童数となります。 　一昨年の説明会では、この左側の推計値を使って説明していましたが、推計値よりも更に１割程度減少することとなります。 　また、右下の表は、統合予定時の３校それぞれの学年ごとの児童数の見込ですが、男沼小においては、２年生・３年生の合計及び４年生・５年生の合計がそれぞれ１６人以下となり、統合しない場合は、複式学級が２つ存在することが見込まれ、実際の児童数の減少には厳しいものがあるということがお分りいただけると思います。 　５ﾍﾟｰｼﾞをお願いします。 　次の６ﾍﾟｰｼﾞまで、保護者の皆様からいただいたご意見やご質問の抜粋となります。１の統合についての意見としては、 ・統合により切磋琢磨でき、一人一人モチベーションがあがる。 ・統合には賛成。人間関係の固定化など、解決が難しい事も改善される。 ・時代の流れに見合った最適な方法 ・子供達の事を第一に考えての統合であれば、反対はしない。 など、統合に積極的なご意見のほか、 ・地区に学校が無くなるのは大変さみしいが、子供が減っていることを考えれば、統合は仕方がない。 など、積極的ではないものの、統合には賛成というご意見がある中で、 ・少人数の方が一人一人に先生の目が行き届く。 ・バス通学が不便であるので反対。 という、ご意見もいただいています。 　続いて、２は、 ・子供達の精神的な負担や勉強への影響など、少人数から大人数になることでの学校生活での心配や不安。 ・スムーズに移行できるように、少しずつ環境を変える準備など、事前の取組案を示してほしい。 などのご意見もいただきました。 　こちらについては、統合前から子供達の交流イベントを開催したり、授業を一緒に受けたりして、子供の不安を解消し、新しい環境にスムーズに馴染めるよう進めていきます。 　また、統合後についても子供達にアンケートを行うなど、心のケアに努めて

	いきます。 続いて、３のスクールバスについてのご質問ですが、実際の運行方法、乗降場所などは、統合に向けた準備を進める中で、保護者や地域の皆さんと協議して決定することになりますが、現時点で想定している主な内容としては、男沼小・太田小の児童の登下校はスクールバスとなります。バス利用の保護者負担はありません。 また、乗車場所を複数箇所設置して、通学班で乗車場所へ集合し、午前８時くらいまでに、現妻沼南小に到着できるよう、ルートや時間を決定し、下校については、下校時間に合わせて、学年ごとに乗車して、登校時の乗車場所で降車することを想定しています。また、スクールバスによる通学となった場合でも、スクールガードや旗振り当番も含め、引き続き保護者や地域の方々の見守り等のご協力をいただきたいと考えています。 ６㌻をお願いします。 ４の体育着などの学用品についてのご質問ですが、こちらも保護者の方々に、ご協力いただき、統合に向けた準備を進める中で決定することになりますが、保護者の負担にならないように、これまで使用している体育着も使えるようにします。新しい体育着も速やかに決定して、買替え等に対応したいと考えています。 ５の統合後の学校跡地ですが、地域の活性化に資するものや、カルチャースクールや塾、子供達の遊び場として活用してほしい、とのご意見や、避難場所として小学校がどの程度残るのか、とのご質問をいただきましたが、学校の跡地活用は、統合の準備が進んでから検討組織を設置して、地域の代表の方々にご参加いただいて検討していきます。地域の皆様のご意向を伺い、可能性を調査しながら検討を進めていきます。 続いて、６のその他のご質問ですが、ＰＴＡの役員も含め、統合後のＰＴＡに係る活動等についても、保護者や先生の方々で統合に向けた準備を進める中で、これから改めて決めていくことになります。 また、学童クラブですが、現在の妻沼南児童クラブに集約します。児童館内にある現在の児童クラブで不足する場合には、新規の児童クラブの設置を検討していきたいと考えています。 以上が、ご意見・ご質問の説明となりますが、本日、配布したもう一つの資料にすべてのご意見等を掲載していますので、後でご確認いただければと思います。 まとめになりますが、小規模校には一人一人にきめ細やかな指導がしやすい

	などの小規模校の良さや、地域交流や子供達を地域で育む場など、地域コミュニティの核としての性格があることは承知しています。 　しかしながら、これから社会に向かって成長していく子供には、一定の規模の集団の中で学ばせて、これからの時代に必要な力をより身に付けさせたいという思いがあります。児童数の減少には厳しいものがあり、最終的には子供の教育環境を最優先に考えた結果、統合が必要であると考えました。 　また、保護者から反対のご意見もありますが、賛成のご意見も多くいただいています。また、スクールバスなどのご質問からも、統合までに決めるべき事項が様々あり、一定の準備期間が必要になります。子供や保護者の心配や不安を解消するためにも、統合に向けた準備を始めさせていただきます。 　地域の皆様には、これまでどおり子供達を見守り、子供達の成長にご支援とご協力をお願いします。 　最後に、統合の準備の進め方について、説明します。 　この後速やかに、男沼小、太田小も含め、新校設立に向けた準備委員会を立ち上げるとともに、検討する内容ごとの部会も立ち上げて、十分な時間をかけて、準備を進めていきたいと考えています。 　準備委員会には、地域やＰＴＡの代表、校長先生に入っていただきたいと考えています。また、検討部会は学校運営部会、通学部会、ＰＴＡ部会などの設置を考えています。 　それぞれの部会ごとの構成員や内容ですが、学校運営部会では、校名、校歌、校章や体育着などの学用品などについて、通学部会では、スクールバスの運行方法や乗降場所など、ＰＴＡ部会では、ＰＴＡ組織や運営、役員の選出などについて協議することになりますので、先生のほか、保護者や地域の方々にも委員となっていただきたいと考えていますので、委員の選出に当たりましては、ご協力をお願いします。 4.　質疑・応答
市民	前回も説明会を開催したとのことだが、今回の説明会には新しい情報はあるのか。
市職員	新型コロナウイルス感染症の関係で、前回の説明会から時間が経過してしまったことから、改めて説明会を開催しました。 　また、見込まれる児童数を住民基本台帳に基づき推計したところ、前回説明した「市全体の減少率に基づいた推計値」より更に少ない数となっています。 　特に男沼小は、令和５年度から複式学級が発生し、令和７年度には複式学級が２クラスできてしまうことが見込まれていることなど、新たな情報をお伝えさせていただきました。

	また、統合に関して、スクールバスや学用品のことなど、統合後に関するご質問を多くいただいていることから、今後統合に向けた準備を進めさせていただくことを今回の説明会で説明させていただきました。
市民	本日の参加者が非常に少ないように感じるが、どのような周知をしたのか。 児童数が減っているので、学校が統合するのはしょうがないかなと思っている。 統合後のことはこれから協議して決めていくとのことだが、学校は災害時の避難所になっていて、統合されて学校がなくなる男沼と太田地域について、災害時にどこに避難したらよいかなどは、市の方で検討しているのか。
市職員	自治会長に依頼して説明会開催の文書を班回覧していただくとともに、保護者には学校からメールで周知しました。 また、愛児園と西妻沼幼稚園においても、周知を依頼しました。
市職員	学校跡地の利活用については、統合が決まった後、地域住民の方のご意見を伺いながら検討を行っていき、この中で避難所についても検討を行うことになります。 避難の考え方ですが、令和元年東日本台風の後、ハザードマップの見直しを実施し、水害発生が見込まれる場合は、予想される浸水の深度を基に早めに安全な避難所へ移動することを周知しています。また、移動に危険が生じる場合は、垂直避難を提案しています。
市職員	これまでの保護者等との意見交換会などで、誤解している方がいらっしゃった件について説明させていただきます。 まず、水泳授業の校外方式についてですが、今年度から熊谷東小と成田小で校外方式を導入しています。これは受け入れてもらえる水泳施設がないと、校外方式を導入できませんので、３校が統合した段階ですぐに校外方式が始まるという訳ではありません。 次に、妻沼南小学校区については、統合後も通学に変更はないので、これまでどおり、旗振り当番は皆様にご協力いただくことになります。 男沼、太田小学校区は通学がスクールバスになりますが、スクールバスの乗車場所までは徒歩ですので、両地域でも旗振り当番は継続してご協力いただくことになります。男沼・太田小学校区についても、統合後旗振り当番がなくなるわけではありません。

	5.　閉会 　本日申し上げたとおり、３校の統合に関しては、子供達の教育環境を第一に考えてのことと皆様にはご理解いただきまして、統合に向けた準備をこれから始めていきたいと考えています。 　もし、ご質問やご意見がありましたら、資料に掲載しています教育総務課までご連絡をいただければ対応させていただきます。 　今後につきましては、ＰＴＡ役員さんや地域の代表の皆様には、統合準備のための検討会へのご参加をお願いさせていただきますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。 　本日いただいたご意見につきましては、今後も検討してまいります。 　統合に係る情報は、随時、皆様にお知らせしていきますので、自治会長様には、回覧等していただく際には、どうかご協力をお願いいたします。 　それでは、これにて妻沼南小学校の地域説明会を終了します。 　ご参加いただき、ありがとうございました。